

千葉科学大学 危機管理学部保健医療学科

松 村 聡*

I. 沿革と概要

千葉科学大学は、千葉県銚子市に位置し、平成16年(2004年)4月に開学した新しい大学です(写真1)。母体は学校法人加計学園(岡山県)であり、昭和39年に開設されました。「一人ひとりの能力を最大限に引き出し引き伸ばす」を建学の理念として岡山理科大学、倉敷芸術科学大学等の大学だけでなく、中学校、高等学校、専門学校を擁し、理学・工学・情報・環境・医療・芸術・獣医など様々な分野での教育・研究に取り組んでいます。千葉科学大学は、薬学部、看護学部、危機管理学部の3学部からなり、設立当初、臨床検査技師の養成は、環境安全システム学科で行われていました。その後、カリキュラムの効率化から基礎

教育を同じ学科内で行ったほうが良いという考えのもと他学科で行っていた臨床工学技士、救急救命士を養成するコースを一つにまとめ、医療危機管理学部として平成21年(2009年)に設置されました。さらに平成31年(2019年)には保健医療学科(定員80名)と名称を変更し、現在に至ります。

II. 教育目標と特徴

本学危機管理学部では、「豊かな教養に支えられ、国際社会で活躍できる素養」、「様々な危機に際して的確に判断、指導できる能力」そして「各学科、各コースで学ぶ専門的な知識と技能」を合わせ持った人材を養成することを目標としています。この目標のもと危機管理の素養を身に付け、それぞれの専門分野における知識と技能を修得



写真1 千葉科学大学マリーナキャンパス

し、安全・安心な社会の構築に寄与する態度や思考力を身につけた者を学部のディプロマ・ポリシーとしています。

さらに保健医療学科では、

- ① 安全で安心な平和社会を創り出すことに貢献し、保健医療分野(臨床検査学・臨床工学・救急救命学)に関する専門的知識及び技能を有し、医療技術分野におけるリスクや危機に迅速かつ的確に対応できる基礎的能力の育成
- ② 医療安全対策や、災害医療の場において貢献できる基礎的能力の育成
- ③ チーム医療に携わる者として医療全般にわたり広い視野と見識を持ち、他の医療従事者とコミュニケーションをとりながら協力し、医療に貢献できる能力の育成
- ④ 生涯を通じ、進歩する医療技術に対し生涯を通じ最新の知識・技術を修得しようとする能力の育成
- ⑤ 問題に対し論理的・実践的な解決策を考案する能力の育成
- ⑥ リスク・危機管理の実践を通じ、国際社会においても活躍・貢献できる基礎的能力の育成の6つの目標を設定し、人の健康と生命を守るための知識と技術を学び、安全・安心な社会の構築に寄与する態度や思考力を身につけた者を社会に輩出することを目標としています。

III. 保健医療学科の教育内容

保健医療学科では、臨床検査学コース、臨床工学コース、救急救命学コースの3コースがあり、臨床検査学コースでは、近年、重要となっているがんゲノム医療に携わる人材育成のために臨床検査技師、細胞検査士、遺伝子分析科学認定士の資格をトリプルライセンスと称し、それぞれの資格取得を目指しています。

初年次教育では自然科学系の基礎知識を学科基礎科目とし、一部、生化学や解剖生理学等の基礎医学を学びます。その他に本学の特色である「危機管理学入門」などの危機管理の素養を身につけるための知識・技能の修得を目指します。また本学は薬学部、看護学部そして臨床検査学、

臨床工学、救急救命学を擁することからチーム医療の重要性を学ぶために「医療専門職連携の必修科目を設け、いくつかの課題に対し、それぞれの立場で解決策を議論するアクティブラーニングを行い、問題解決能力を育成します。2年次からは各コースに分かれて専門科目を学びます(写真2)。講義や実習には、SGD (Small Group Discussion) やアクティブラーニングを取り入れ実践し、保健医療分野に関する専門的知識・技能が効果的に修得できるように設定されています。また3年次には遺伝子分析科学認定士の資格取得を目指します(写真3)。

4年次では、臨地実習を設定し、実習前にはOSCEを実施し、臨床検査技師の資格のない学生に対し、一定の資質を備えることを目的に各科目について臨地実習前評価を行っています



写真2 血液検査学実習



写真3 遺伝子検査学実習

(写真4)。さらに卒業研究を設け、総合的な問題解決能力、観察力、分析力そして説明能力などを身につける教育を行っています。また細胞検査士の資格受験を希望する者は、補習授業を中心に10月と12月に行われる細胞検査士試験に向け研鑽を積みます。

IV. 大学院危機管理学研究科

本学危機管理学研究科では修士課程、博士後期課程の大学院を設置し、リスク・危機管理の専門分野を共通知識とし、防災、環境および医療技術の分野が互いに連携して総合的な見地からリスク・危機を評価・管理することができる人材



写真4 採血シミュレーション

育成を目指しています。研究科には危機管理学専攻(修士・博士課程)と社会人向けコースとして総合危機管理学コース(修士・博士課程)と令和元年(2019年)より医療マネジメントコース(修士課程)を設置し、医療技術の知識を基盤として医療政策学、医療管理学、病院経営学、医療コミュニケーション論の分野に、本研究科の特色である総合危機管理学の分野を加えたカリキュラムを構成し、将来、職場での管理者となるための教育を行っています。

V. 今後の課題と計画

現在、細胞検査士を希望する1期生が学部2年生であり、今後、専門科目を学ぶ段階になります。学生に合わせた教育と試験のサポートを行っていく必要があり、完成年度に向けた具体的なシステムづくりを行っていきます。

また、2022年入学生からの臨床検査技師学校養成所指定規則の改正にあわせて本学のカリキュラムの見直しを行う予定です。

さらには2020年のCOVID-19の影響により、オンライン授業の実施や従来の実習を行うことが困難になったことを踏まえ、今後の実習のあり方や環境の整備を図っていきたいと考えています。